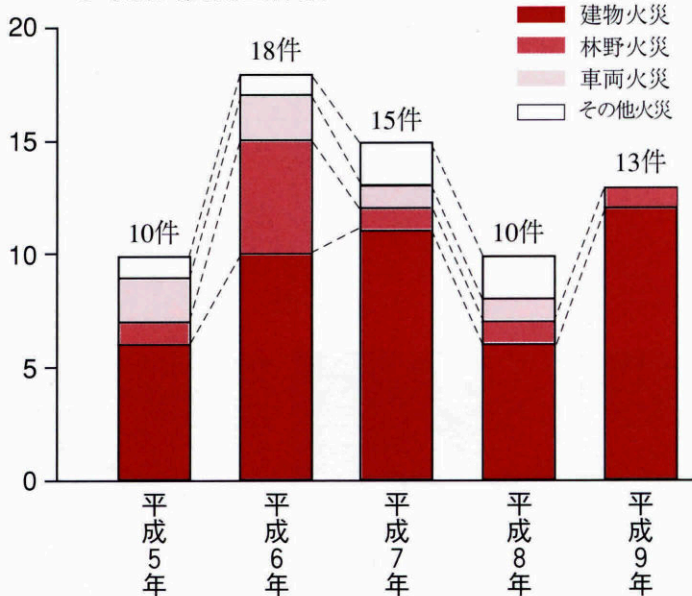


数字で見る火災の現状

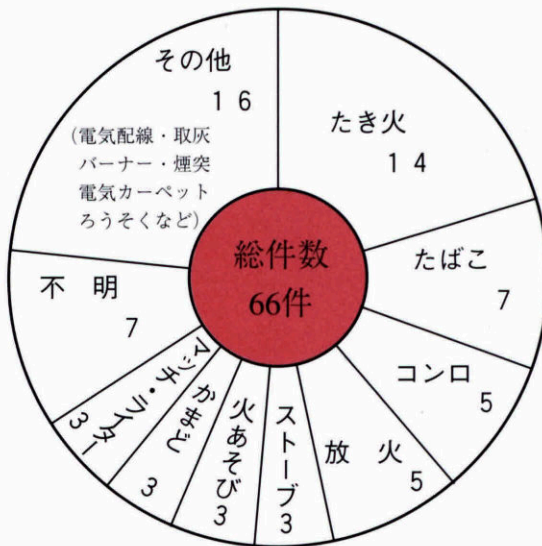
[平成5年から平成9年までの火災]

長門市

○年別火災発生件数



○5ヶ年の火災原因別件数



(長門地区消防本部調べ)

初期消火活動は専門性の高い活動です。自分たちだけで火事を抑え込めると考えるのは危険です。決して無理をしないのが鉄則で、無理は取り返しのつかない二次災害を引き起こすことになりかねません。

一般的には、天井に火が燃え移るまで、出火から3分くらいが初期消火の限度といわれています。それを超える火災に発展したら、すぐ避難して、消防隊が到着するまでの間は、火事の延焼拡大を防ぐことに努めます。

住民による消火活動は、①ポヤで消し止められるような場合の活動②火事の延焼拡大防止の活動が基本なのです。

初期消火ポイント5

- ① 大声で「火事だ！」と叫び、周囲に知らせる。
- ② 火元を見極め、できるだけ火元に近寄って消す。
- ③ 消火器やバケツにとらわれず、消火に使用できるものを臨機応変に利用する。
- ④ 風上から消火活動を行う。
- ⑤ 避難出口を確認する。

天ぷらなべ

あわてて水をかけるのは禁物。消火器がない場合は、濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火する。

石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火。(斜めにかけて油が飛び散って危険)油が流れているようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火する。

カーテン・ふすま

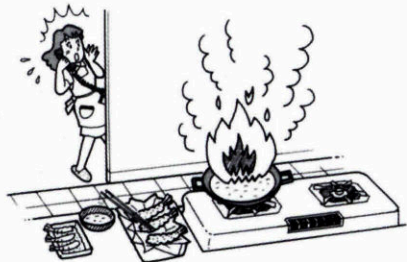
カーテンやふすまなど立ち上がり面に火が燃え広がったら、余裕はありません。引きちぎったり蹴り倒して火元を天井から遠ざけて消火する。

着衣

着衣に火がついたら転げ回って消すのも方法。髪の毛の場合なら、衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶり消火する。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険があります。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火する。



火元別初期消火のポイント